

# かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 5 No 05

4 6 号

平成9年 5月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

## 医療保険制度改革'97


院長

医療保険制度については昨年10月号にも書いてあるので、皆さんも御存知のことと思います。今国会で審議されている健康保険法も、この中の一つです。医療費は年々増加の一途をたどり、ここ10年で1.5倍以上増加し、健康保険の赤字が続いています。国民一人当たりの年間の医療費の平均がどのくらいなのか、皆さんご存知ですか？。恐らく知らないと思いますが、何と約21万円です。国民の医療費全体では、27兆円にもなってしまいます。この赤字の解消こそが、国としての大きな問題なのです。

この目的として本人の負担を1割から2割へ引き上げる。薬剤費を一定の割合で負担する。老人の負担を増やす。ことが確実にできています。しかし政府案がすんなりとは通らず、修正案が示されています。

この中で問題なのが、薬剤費の負担です。政府案としては、外来薬剤1種類1日分につき15円ということになっていました。しかし修正案では投与回数にかかわらず、薬剤の数による負担を求めています。はっきりしたことは不明ですが、これは小児科にとってはかなり大きいことになるかも知れません。この問題は、もともと医療費の中に占める薬剤の割合が諸外国より多いことに端を発しているのです。小児科の場合はそんなに問題になることではなく、老人での薬の割合が多いことが原因となっているのです。その薬を減らすために患者さんの負担を多くして、薬の処方量を減らそうとしているのです。もちろん不必要な薬を減らすことには賛成です。ところが政府、各政党やマスコミまで、大人も子供も一色単にして考えてしまっているのです。当然老人や大人と比べれば、小児科の子どもたちは処方する薬の種類は少なく体が小さい分だけ量も少ないのです。それを大人と同じように、一剤当りの金額や薬剤数による負担を求めることは間違っているのです。薬剤費が少ないにもかかわらず、負担を大人と一緒にするのはむしろ負担の割合が高くなるのです。つまり

**5月のお知らせ**  
**連休中の休診は、カレンダーどおりです。**  
**育児栄養相談**  
 毎週水曜日 栄養士担当  
 参加無料



子供により多くの負担を求めることになるのです。老人と比べ小児科では急性の病気が多いため処方の日数は短くなります。まして投与回数に關係ない薬剤数による負担では、処方ごとにその負担がとられるとすれば、又ここでも何倍もの負担を、子どもたちがしなければならないのです。



それでいて片方では、少子化のため子供を安心して育てる環境作りが必要だと厚生省その他は言っています。薬剤も含め医療費の負担が多くなれば、安心して子供を病院に連れていくことも考えなければなりません。ひいては、子供を産み育てることの不安の一つにもなるかも知れません。それだけではないと思いますが、少子化に歯止めを掛けることもできないかも知れません。

小児科は、病気でなくても来るところです。親御さんたちの不安の解消も小児科の一つの目的です。政府、各政党やマスコミも医療費の抑制を押さえるためには、医療の包括化が必要と考えています。当院は以前から言っているように、病気でなくても相談に来れることを考えて医療費の包括化は採用していません（包括化にすると医療費は高くなってしまいます）。またこの新聞もインターネットでの医療相談も無料で、ボランティアとして行っているのです。安心して子供を産み育てることを一小児科医として考えているのですが、残念ながら世の中はそう動いてはくれません。

今までも署名を頂いて、反対を唱えてきましたが、なかなか理解してもらえそうにありません。小さい意見がどれだけ力になるかはわかりませんが、子供の味方の小児科医としては頑張るつもりです。応援是非お願い致します。またまた難しい話になりましたが、御意見お待ちしております。（この情報は確定ではありません。内容に誤りがあれば、お許し下さい。）

4月19日の学会による休診では、御迷惑をおかけしました。お陰様で特別講演（松山の徳丸先生）で、新しい小児科として当院のINTERNETのホームページ等が紹介され、小生も満足して帰ってきました。ありがとうございました。

## 読者の広場

皆さんもうお気づきのことと思いますが、看護婦の中米君が産のためお休みになります。大きなお腹で、病院のために頑張ってくれています。今月も励ましのお手紙をいくつか頂いたので紹介します。『看護婦さんへ もうすぐ出産ですね。がんばって元気な赤ちゃんを産んで下さい。いそがしそうですね、手紙にします。私はすごく安産だったので、うつるようお祈りしています。また元気に戻ってきて下さい。いつもお世話様です。ちさこの母より』また寺本さんから『（一部省略）中米さんもうすぐですね。私 男の子という気がするのですが、いかがですか。でも元気だったらどちらでもいいですね！！産まれたら写真を見せてくださいね！』他に診察室では、数限りない励ましを頂き有り難うございます。



中米君から一言があります。『看護婦の中米です。お腹も日に日に大きくなり、臨月を迎えました。目立ってきたお腹を気づかって、たくさんの励ましの言葉やお手紙を頂き、とても嬉しく思っています。本当にありがとうございました。

今後は産休に入り、静養したいと思います。元気な子供を出産し、産後また仕事に復帰したいと考えています。復帰後は母親としての自分が、病気の子供を持つ母親の気持ちを今まで以上に理解できるように努めたいと思っていますので、復帰後もよろしくお願い致します。』

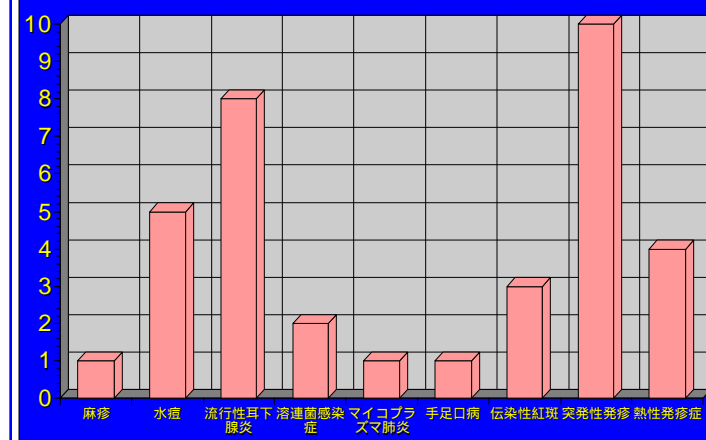
産休の間は皆さんに何かと御迷惑をおかけしますが、よろしく御理解お願い致します。ここのところ、色々な事情で、看護婦さんが入れ替わり御迷惑をおかけしましたが、またまた御迷惑をおかけすることになります。

## 新しい看護婦さんが入りました。

4月から新しいスタッフが入りました。看護婦の北沢さんです。従来のスタッフ同様、どうぞよろしくお願い致します。『こんにちは！ 4月の中ごろから、こちらの病院で働いています看護婦の北沢です。先生やスタッフの方々から1つでも多くのことを学びお父さんお母さんへ伝えていくことができたらよいと考えています。未熟な私ですが精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。北沢宏枝』

6月から新しいスタッフがもう一人増える予定です。乞う 御期待。

## 4月の感染症の集計



先月と比べて、大きな変化はありません。麻疹が一例見られましたが、流行の気配はありません。流行性目下腺炎は比較的多く見られています。グラフに示してありませんが、インフルエンザ（B型）も、季節外れですが可なり多く見られていました。発熱は長いと10日も続くこともありましたが、最近は減少傾向です。但し真冬のインフルエンザと比べると、他の風邪も見られ区別が難しいところ。ロタウイルス嘔吐下痢症（便が白くなり、嘔吐、高熱）も多く見られましたが、少し減少傾向のようです。また0-157による感染性胃腸炎も一人見られました。仙台市では今年初めての患者でしたが、大きな問題もなく改善しました。季節がら、喘息やぜーぜーする子どものが目立ってきています。体質のあるお子さんは、注意して下さい。

## 予防接種のお知らせ

ポリオの接種が5月でもまだ間に合います。都合などでできなかった場合は、他の区でも可能です。できるだけ受けるようにして下さい。詳しくはスタッフに御相談下さい。

5～7月まで、日本脳炎の接種を行います。該当する子は、接種を受けるようにしましょう。

**ポリオ**  
 対象者 第1回 平成8年7月1日～12月31日生れの児  
 第2回 平成8年10月に1回目の投与を受けた児  
 その他 投与を延期していた90ヶ月までの児

**日本脳炎**  
 対象者 1期初回 生後6カ月～90カ月未満（標準3歳）  
 1期追加 生後6カ月～90カ月未満（標準4歳）  
 2期 9～13歳未満（標準小学4年生）  
 3期 14～16歳未満（標準中学2年生）  
 2.3期は、1期を済んだ子が対象です。

## 編集後記

やっと落ち着いてきたようです。少しは余裕ができていいなと思っています。スタッフが手薄になり、御迷惑をおかけすることが、心苦しく思っています。スタッフ一同、今まで以上に頑張るつもりです。



目次に戻る

前の号

次の号